

丹波小  
学校便り



# 丹波の流れ



発行日

令和6年4月27日

第1号

文責：芹川

## 令和6年度のスタート

4月4日。丹波小学校の令和6年度が始まりました。まず、スタートは新任式と始業式です。

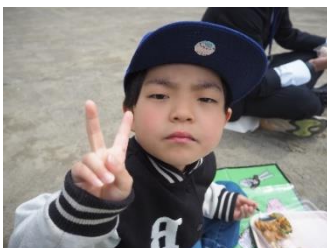
3月25日に丹波小学校や児童のことが大好きだった沢山の先生方との別れがありましたが、8名の先生方と3年生に西村惟吹さん、4年生に佐々木海晴さんを迎え、今年度の丹波小学校は、児童15名、教職員16名、総勢31名でスタートしました。



次の日には、入学式。

今年度、丹波小学校に入学した「丹波山村の宝もの」は、  
嶋崎 廉（れん）さんです。

入学式でのお返事も、とても大きな声で、しっかりと  
ご挨拶ができました。 毎朝、「おはよ～」と手を挙げ



元気に登校してきます。

休み時間は先生方とキャッチボールをしたり、お兄さんやお姉さんと遊んだりしています。  
よろしくお願いいたします。



# 丹波小学校のいいところ①

給食がとてもおいしいです。また、季節を感じるができる給食が多かったり、目で楽しむことができたり、まさに「食育」。今回は、「お花見給食」と「山菜の天ぷら」をご紹介します。

山菜の天ぷらは、朝採りですから新鮮です。そして、ほどよい塩加減（これを本当の意味で『いい塩梅』というのですね。）で、調理員さんたちの腕前に感謝しています。小学校で「山菜の天ぷら」を食べることができる子どもたちは、全国でもそんなにはありません。当たり前にあることが、どれだけ幸せなことなのか。大人になったらわかる日が来るでしょう。いつもおいしい給食をありがとうございます。



## しあわせについて

最近、「幸せの授業」（飛鳥新社）という本を読んだのですが、『幸福の正体は3つの脳内物質が関係している』ということが書いてありました。「脳内物質」などと聞くと難しそうに感じますが、3つとは、「ドーパミンの幸福」「オキシトシンの幸福」「セロトニンの幸福」があり、時代によって幸せの価値観が変わるといっています。昭和の高度経済成長期は、物質的な豊かさを追い求めていた時代で、テレビ・洗濯機・冷蔵庫という家電の「三種の神器」を手に入れることが幸せとされていたそうです。成功や達成感を経験した時に分泌されるドーパミン的な高揚感をともなう幸福が、追い求められた時代でした。でも、1990年の株価の大暴落を契機にバブルは崩壊し、「お金だけでは幸せにはなれない」「お金ばかりを追い求めてもむなしい」ということを多くの人が学びます。そして、2011年の東日本大震災を経験し、家族や友人、身の回りの人の存在や絆、繋がりの大切さを改めて知りました。それが「オキシトシンの幸福」です。そして、コロナ禍。世界的なパンデミックを経験し、人は健康の尊さを実感しました。心と体が安定している時に感じられるやすらぎや心地よさ。それが「セロトニンの幸福」。

この3つの幸福には優先順位があるそうです。『まずは、「健康」。病気になると人と会うこともなくなり、学校や会社に行けなくなると「つながり」も失われる。心と体の安定があつてはじめて仕事も頑張れる』と。ただ、どの幸せに価値を感じるかは、性格やその人のそれまでの経験によって変わるようです。私は、この著者の考えに共感できました。みなさんは、どうですか？